

| | | | |
|------|----------|----------------------|----|
| 授業科目 | 高齢期作業療法学 | 3 学年・前期・2 単位 (30 時間) | |
| | | 作業 | 必修 |

| | | | |
|---------|--|-----------------|----|
| 科目担当責任者 | 坂上真理 (保健医療学研究棟 E510 号) e-mail : todo@sapmed.ac.jp | 非常勤講師 連絡担当教員 | |
| 担当教員 | (川添裕美) | | |
| 概要 | 高齢期作業療法領域で対象となる人々の障害構造並びに生活課題を理解する。それに基づき、高齢期作業療法の役割、高齢期作業療法の評価から介入までの過程と対象者に対すると高齢期作業療法の目標を学習する。さらに、対象者の特徴をふまえた評価計画の立案方法と主要な評価法を学ぶ。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢期作業療法が実施されている領域の特徴と作業療法の役割を説明できる。 2. 高齢期における生理的变化並びに、発達特性、社会特性、生活課題を説明できる。 3. 高齢期障害者の主要な障害構造を説明できる。 4. 高齢期作業療法の主要な過程と目標を説明できる。 5. 高齢期作業療法の対象者に必要な評価をその理由とともに説明できる。 6. 高齢期作業療法に用いられる主要な評価法を説明できる。 | | |
| 関連科目 | 老年医学、作業療法評価学 1～2、日常生活適応学、作業理論と評価、高齢期作業療法治療学 | | |
| 評価 | 評価対象 | 評価割合 (%) | 備考 |
| | 試験 | 60% | |
| | 提出物 | 30% | |
| | 学習態度 | 10% | |
| | | | |
| 教科書 | ①松房利憲編集 [2015 年・4,400 円] 「高齢期作業療法学第 3 版(標準作業療法学 専門分野)」 医学書院 | | |
| 参考書 | ①坪田貞子編集 [2008 年・7,150 円] 「身体作業療法クイックリファレンス」 文光堂 ②山田孝編集 [2016 年・4,180 円] 「高齢期障害領域の作業療法第 2 版」 中央法規 ③一般社団法人日本作業療法士協会編著 [2021 年・4,400 円] 「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第 2 版」 医歯薬出版 ④潮見泰蔵、下田信明編集 [2019 年・6,600 円] 「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学第 2 版」 羊土社 | | |
| 履修上の留意点 | 関連する既修得科目の復習をすること。 評価計画提出後のフィードバックは、グループ単位で別途実施する。 | | |

| 実施回 | 内 容 | 事前・事後課題 | 形態 | 担当教員 |
|-----|--|---------------------------------------|----|------|
| 1 | 高齢期作業療法の特徴(1) ・高齢期作業療法の対象(高齢者とは、高齢期の区分、健康状態の特性、対象疾患・障害) ・高齢期作業療法の実践領域 高齢社会と高齢期作業療法の変遷 | 事前：教科書 p8～16 を読む。 事後：ワークシートの完成。 | 講義 | 坂上 |
| 2 | 高齢期作業療法の特徴(2) ・高齢期作業療法の目的 ・高齢期作業療法過程の特徴(トップダウン/ボトムアップ・アプローチ) ・生活期リハビリテーションと生活行為向上マネジメント | 事前：教科書 p33～38 を読む。 事後：事例ワークシートの完成。 | 〃 | 〃 |
| 3 | 高齢期作業療法と ICF 高齢期の参加、生活、生活課題の特徴と評価 高齢期の QOL と健康 | 事前：教科書 p20～28 を読む。 | 〃 | 〃 |

| | | | | |
|----|--|--|-------|------|
| 4 | 老化と高齢期の作業遂行 高齢期の心身機能と身体構造の特徴と評価(1) ・フレイルとロコモティブシンドローム | 事前：教科書 p39~42、p43~48、p51~59 を読む。老年医学の関連内容を復習する。 | 〃 | 〃 |
| 5 | 老化と高齢期の作業遂行 高齢期の心身機能と身体構造の特徴と評価(2) | 事前：教科書 p42~43、p49~50、p59~63 を読む。老年医学の関連内容を復習する。 | 〃 | 〃 |
| 6 | 高齢期と認知症 高齢期の環境因子の特徴と評価 ・家族、ソーシャルサポート、エイジズム、虐待 | 事前：教科書 p64~73、p22~24 を読む。 | 講義・演習 | 〃 |
| 7 | 高齢期の個人因子の特徴 ・高齢期の発達特性とライフイベント ・生活者、作業的存在としての高齢者の理解とナラティブ ・ニーズとディマンズ | 事前：教科書 p17~20 を読む。 | 講義 | 〃 |
| 8 | 高齢期の活動の特徴と評価 ・日常生活活動の評価(FIM ほか) ・基本的日常生活活動 | 事前：指定資料を読む。 | 講義・演習 | 〃 |
| 9 | 高齢期作業療法の実践過程と病期・実践場所別特徴 ・目的、評価、目標設定 ・リスク管理 | 事前：教科書 p95~116 を読む。 | 〃 | 〃 |
| 10 | 高齢期作業療法の実践過程の確認 事例を用いた評価計画 | 事後：レポート作成する。 | 〃 | 〃 |
| 11 | 事例を用いた評価計画 | 事後：レポートを作成する。 | 〃 | 〃 |
| 12 | 老年症候群(廃用症候群、転倒)の高齢期作業療法：評価と目標 | 事前：教科書 p46~47 を読む。 | 講義 | 〃 |
| 13 | 認知症を有する対象者の高齢期作業療法：評価と目標 | 事前：教科書 p130~145 を読む。 | 〃 | 〃 |
| 14 | 運動器系疾患を有する対象者の高齢期作業療法：評価と目標 | 事前：指定資料を読む。 | 〃 | 〃 |
| 15 | 介護老人保健施設の作業療法 | 事前：介護保険制度の確認する。 | 〃 | (川添) |